



卒業生の進路先訪問 ～群馬県庁を訪れました～

高等部Ⅰ班では、5月の校外学習で卒業生Aさんの進路先である群馬県庁を訪問しました。

高等部を卒業して8年目を迎えるAさんは、就労移行支援事業所を経て、現在は県庁に勤務されています。また、生活面でも、グループホームを経て、現在は必要に応じてヘルパーのサポートを受けながら、一人暮らしをされています。持ち前のバイタリティやコミュニケーション力、周囲を味方につける力等を生かし、とても素敵な女性として活躍されています。

今回の号外では、Ⅰ班3名の感想について御紹介します。

○卒業生Aさんが県庁で働く姿を見て、自分の将来をイメージしたBさん

印象に残ったことは、県庁でいろいろな方たちと働いているということです。自分が働くことになったらどんな風に仕事をしているか想像できました。将来パソコン関係の仕事につきたいので高校では、エクセルの勉強を頑張っていきたいと思っています。

○サポートを依頼するコミュニケーション力と自立した生活に感銘を受けたCさん

知らない人にも頼み事を伝えていてすごいなと思いました。今の私は、緊張して声をかけられないので話を聞いて、手伝ってほしい時は、知らない人にも声を掛けられるようになりたいです。一人暮らしを試みたいけど、一人は怖いのと、災害の時が不安ですが、とても参考になりました。

○自己理解と、伝えることの大切さを再認識したDさん

印象に残ったのは、「自分を知る力」という言葉です。私は就業体験などで普段関わっていただけない方に自分のできること・できないことを伝えるときにどのように伝えてよいのか分からなくなっています。私も「自分を知る力」をもっと身に付けたいと思います。

「自分の体調に合わせてできる仕事を決めている」というお話もとても勉強になりました。学んだことを生かして、これから社会に出た後、いつまでも元気に仕事を続けられるようになりたいです。



憧れの先輩から
多くのことを
学びました

群馬県庁
イェーイ

先輩の姿は、生徒たちにとって未来を照らす道標となったようです。大切な姿勢を学んだ、実りある訪問となりました。

「遠くの空を見て、今を生きる」

